

日本気象学会2011年度総会議事録

日 時：2011年5月19日（木）13時30分～15時40分

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者数：通常会員の会場出席者80名，総会参加票のうち有効票による出席者594名，合計674名。（通常会員現在総数1,084名（2011年4月11日現在））

総会成立の要件：通常会員現在総数の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし，総会に出席できない通常会員で，当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者，および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。（定款第38条）

議 事

1. 開会

藤谷理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に佐藤薫会員（東京大学大学院）を選出した。

3. 理事長挨拶

本大会の開催に尽力いただいた東京大学大学院理学系研究科、東京大学先端科学技術研究センターならびに極地研究所の会員、大会実行委員会、講演企画委員会の皆様にお礼申し上げます。各会場で熱のこもった講演と議論が行われていることを大変嬉しく思う。

3月11日に発生した東日本大震災は2万5千人近い死者・行方不明者を生ずる深刻な被害をもたらした。この震災で尊い命を失われた方々とそのご家族・ご親族の方々に深い哀悼の意を表すと共に、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。理事会では被災会員の方の会費の免除を検討しつつあり、また被災により春季大会に参加できなかった方には参加費の返却を決めた。

3月18日付けの理事長名のメッセージでは、福島第一原子力発電所の事故が極めて深刻なものになる可能性のある中、研究者が拡散シミュレーションの結果を公表する際には社会に引き起こす影響を十分に考えた上での行動を促した。メッセージを発するに当たって、短時間ではあるが、常任理事間でメールにて検討いただいた。その際、メールには「気象の専門家として、拡散のシミュレーションをして科学的検討をすることやその結果に関する専門家間の情報交換をすることを妨げる意図は全くない」と記したものの、メッセージ文では説明不足な点があった。その結果、学会が社会の一部から批判を受けることになったことを、会員の皆様には深くお詫び申し上げます。なお、このような事態のために開発された SPEEDI という予測モデルの結果が、今回有効に利用されなかったことは極めて遺憾である。

今回の原発事故に関連して今後学会が行うべきことは、放射性物質の観測データの取得への参加・協力と共に、データに照らしたモデル研究を行い、今回の一連の事象を科学的に検証すること、そしてこれらの研究から明らかになる事実経過に照らして政府諸機関や学会の事故対応の検証と議論を行うことである。評議員会においても意見を伺い、議論を深める際の参考としたい。また、今回の津波災害を含め、防災上での経験の活かし方の議論も深めたい。

学術誌関連では、投稿促進と優れた研究の顕彰の機会を増やすために創設した気象集誌論文賞とSOLA論文賞の受賞論文を発表した。また、電子投稿・論文登載システムの高機能化、Scholar Oneという投稿審査システムの導入が行われ、投稿者・査読者・編集委員ともに操作性がよくなる。さらに、Web of Scienceへの収録が認められたSOLAのcitation indexとして0.761という値が出ると共に、気象集誌は2007年の0.793から2009年の1.104と順調に上昇し、citation向上の効果が出ている。今後も気象集誌とSOLAへの積極的な投稿をお願いする。

震災により国の財政の厳しさが増す中、学会としてしっかりとした将来構想を持つことが重要である。学術委員会では昨年からの熱心な議論を続けていただいております、その議論をまとめ始める段階にある。

若手研究者問題については、若手・任期付研究者のキャリア形成支援のため、IAMAS 小委員会と共に今大会から会場にリクルートブースを試験的に設けた。有効な利用とお気付きの点は連絡いただきたい。

公益社団法人移行では、来年度の申請に向けて今年度は理事会にて新しい定款案を作成し、会員の皆様の意見をうかがう期間を設ける予定である。

総会参加票では貴重な意見を多数いただいた。真摯に受け止めて、今後の運営に生かして行きたい。最後に、春季大会の開催に当たって尽力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げます。

4. 表彰

(1) 日本気象学会賞

学会賞候補者推薦委員会委員長の余田理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

岡本 創 (九州大学応用力学研究所教授)

能動型地球観測センサーによる雲・エアロゾル特性に関する先駆的研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会委員長の藤谷理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

田中 浩 (名古屋大学名誉教授)

成層圏気象学・気候学ならびに地球環境学の研究推進への貢献

(3) 気象集誌論文賞及びSOLA論文賞

気象集誌編集委員会の佐藤薫副委員長が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

谷本陽一, 梶谷卓志, 岡島秀樹, Shang-Ping Xie

南アメリカ大陸降水帯の季節進行に見られる固有の特徴

野田暁, 新野宏

スーパーセルに伴って発生する竜巻の数値的研究：竜巻の発達機構とその渦度収支

坂崎貴俊，藤原正智

日本上空の下部対流圏の風の日変動Part I：局地的気象監視システム(WINDAS)を用いた観測結果

日本上空の下部対流圏の風の日変動Part II：気象庁メソ解析データおよび4種類の全球再解析データを用いた解析

木下 武也，富川 喜弘，佐藤 薫

プリミティブ方程式系における3次元残差循環と波活動度フラックスについて

SOLA編集委員会委員長の三上理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Junshi Ito, Hiroshi Niino,

and Mikio Nakanishi

“Large Eddy Simulation on Dust Suspension in a Convective Mixed Layer”

5. 2011年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2010年度事業報告

藤谷理事から、会員数の動向、機関誌等の刊行、大会の開催、研究業績の表彰、支部活動、普及活動等の事業報告があった。

議案2：2010年度収支決算報告

萩原事務局員から、公益法人平成20年会計基準を採用した今年度の決算書における従来との変更点の説明と、財産目録総括表や収支計算書等に基づく決算報告があった。

議案3：2010年度監査報告

岡本監事から、帳簿類の管理、収支、会員数の動向等に関する監査結果が報告された。

2010年度の活動について、サイエンスカフェを予報士会と共同で開催するなどの部外機関との連携を積極的に取り組んでいるとの評価を受けた。しかし、会員数の減少に伴う会費収入の減少が続いており、学会活動の低下につながることへの懸念が示されると共に移行に伴う制度見直しの中で対応策を検討すべきとの指摘があった。

議案4：理事の辞任に伴う後任の推薦について

新野理事長から、全国区及び地方区理事の辞任に伴う追加推薦者について説明があった。

議案5：第36期日本気象学会名誉会員候補の推薦について

名誉会員推薦委員会の藤谷理事から、3名の候補者及び推薦理由の説明があった。

議案6：役員の報酬・退職金に関する規定（案）について

藤谷理事から、役員の報酬・退職金に関する規定が提案され、文部科学省の指導に基づく明文化であり、現状の通り支給しないという内容であることが説明された。

議案7：2011年度事業計画（案）

藤谷理事から、従来の事業に加え、新公益法人制度の下で2012年度に公益社団法人の認定申請を行

うことを目標に必要な準備を進めることが提案された。

議案 8：2011年度収支予算（案）

萩原事務局員から、今年度の予算書における従来との変更点と日中韓共催国際会議開催経費及び事務局移転経費の将来の支出を勘案し特定資産として積み立てることが説明された。

(2) 質疑応答

3月18日付けの理事長メッセージの内容と発信の経緯についての質問があった。

新野理事長から、重大事故に至る可能性もある緊急事態の中で防災対策の基本について気付いてもらうためのものであり、発表を科学者の責任で行うことは問題ないと考えていたこと、理事長メッセージで多くの方に心配をおかけした点も含め会員と一緒に総括を検討したいこと、発信に関してメールで常任理事に諮ったがいくつかの賛同はあったものの反対はなかったことの説明があった。

6. 採択

議案 1～8について、有効総会参加票（下記註）も含め以下のように賛成多数で承認された。

議案 1：賛成 672, 反対 0, 保留 2

議案 2：賛成 669, 反対 0, 保留 5

議案 3：賛成 673, 反対 0, 保留 1

議案 4：賛成 667, 反対 2, 保留 5

議案 5：賛成 672, 反対 1, 保留 1

議案 6：賛成 669, 反対 2, 保留 3

議案 7：賛成 671, 反対 2, 保留 1

議案 8：賛成 668, 反対 1, 保留 5

〔註〕有効総会参加票：674票

全議案に賛成：345票

議長委任(賛成)：206票

議案毎に賛否：123票。

7. 議事録署名人の指名

議事録署名人に高木征弘会員（東京大学大学院理学系研究科）と富川喜弘会員（国立極地研究所）を指名したところ、異議なく承認された。

8. 報告事項（公益社団法人移行について）

総合計画委員会委員長の藤谷理事から、会場配布資料に基づき、公益社団法人への移行の意義、学会としての対応ならびに検討状況、特に社員制度・役員制度・会計制度の検討結果、今後の移行スケジュール等について説明があった。

9. 議長解任

佐藤議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

10. 閉会

藤谷理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成23年6月23日

総会議長 : 佐藤 薫
出席者代表 : 高木 征弘
出席者代表 : 富川 喜弘